

平成30年度 札幌工科専門学校自己評価結果

1. 教育理念・教育目標

教育理念

少人数制教育による親切・丁寧・分かり易い教育

教育目標

- ・基礎学力の向上
- ・専門の基礎知識・技術の習得
- ・社会人になるためのマナーと教養を身につける

2. 評価基準

5	4	3	2	1
良	やや良	普通	やや不十分	不十分

3. 評価項目及び評価

I 教育理念・目標

項 目	H28 評価	H29 評価	所 見
①教育目標は、学生・学校の実態に即し、本校の目指す目標として適切であったか	3.8	3.7	・ 本校を目指す目標は適切であるが、教員が一致団結して目標に向かって行かなければならない。 ・ 概ね適切と思える。
②学校教育目標は、学生に周知され、学生生活を送る上での指針となっていたか	3.6	3.5	・ 指針となったと考えるが、学生側の反応が若干小さい。
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.2	3.5	・ 技術者の減少に対応した構想と考える。 ・ 今後入学して来る学生はより多様化すると思う。
④学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3.5	3.3	・ 保護者よりも、企業実習生を送り出す企業担当者に、危機感が見える。
平 均	3.5	3.5	

II 学校運営

項 目	H28 評価	H29 評価	所 見
①本校の経営方針について共通理解が図られ、日々の教育活動に反映されていたか。	3.2	3.1	・ 共通理解が図られているかどうか、若干疑問である。
②学校運営は協働体制のもと、円滑に進められたか	2.8	2.5	・ まだまだ円滑に協働体制が進められていない。 ・ 指示系統に迷走あり。 ・ ぎくしゃくしている。 ・ 連絡体制が良いとは言えず、円滑に進められたとは思えない。
③学校行事は的確な計画・内容のもと、円滑に進められたか	3.6	2.8	・ 指示系統に難あり。 ・ ぎくしゃくしている。 ・ 計画内容に検討の余地がある。 ・ 情報発信が遅く、打ち合わせの不足が見られた。
④人事、給与に関する規程等は整備されているか	4.0	3.1	・ サービス残業状態が慢性化。 ・ 概ね整備されていると思える。
⑤教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.1	3.2	・ 概ね整備されていると思える。 ・ 現場の声が届きにくい。
⑥業界や地域社会等に対する法令を遵守する体制が整備されているか	3.7	3.6	・ 概ね整備されていると思える。
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.8	3.6	・ 概ね整備されていると思える。 ・ ガイドラインに則り、HP で公開している。
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4.3	3.4	・ 更なる効率化が可能と思われる。 ・ 個人の差がある。
平 均	3.6	3.2	

III 教育活動

項 目	H28 評価	H29 評価	所 見
①教育課程（方針・内容）は、本校の教育理念・教育目標を適切に反映されたものであったか	3.5	3.6	・ 各自が一生懸命に教育を行っているが、同じ方向を決して向いているとは思えない。その当たりを改善していかなければならない。 ・ 反映されていると思える。

②今年度の教育課程編成は、適切・効果的であったか	3.2	3.2	・編成内容に検討の余地があると思われる。 ・日数と教員配置による都合での時間割組になってしまう。しかし、資格試験前の集中授業は効果を発揮している。
③教科科目の学年配置や時数の配分は適切であったか	3.8	3.2	・概ね適切であったと考える。
④シラバスの内容や使用教材は適切であったか	3.3	3.5	・概ね適切であったと考える。 ・今後、様々な制度に対応するため、ガイドラインに沿ったシラバスの整備、全体の校正を進める必要がある。
⑤授業は年間指導計画どおりに進めることができたか	3.8	4.1	・概ね計画通りであった。
⑥少人数制教育による指導の成果が発揮されていたか	3.3	3.3	・発掘されていたと考える。
⑦学生の理解度に合わせ、「よく分かる授業」の推進に努めたか	3.6	3.3	・学生に学力差があるので、充分であったか疑問。
⑧成績不振者への対応は適切に行われていたか	3.5	3.4	・概ね適切であったと考える。 ・再試に忙殺されてしまうが、個別指導も行っていた。
⑨学生による授業評価を学習指導の改善に役立てることができたか	3.3	2.9	・概ねできたのではないかと考える。 ・学生が記載しやすいアンケート形式の工夫が必要。
⑩教科科目の評価・評定は適切に行われたか	4.2	3.6	・適切であったと考える。
⑪定期考査・追考査の実施(時期・時間等)は適切であったか	3.9	3.5	・教科数に負担の大きい学科、学年がある。 ・適切であったと考える。
⑫資格取得指導は適切・効果的に進められたか	3.9	3.6	・時期に合わせた指導で全員合格へ導いていた。 ・適切であったと考える。
⑬現場見学・インターンシップは適切・効果的に進められたか	4.4	3.9	・地震があつて当初の予定通りとはいかなかったが、無事終わることができた。 ・適切であったと考える。
⑭学生へのマナー指導や社会性を身に付けさせる指導は適切に行われ、満足する状況にあるか	3.1	2.6	・置き引き犯罪が発生した。校舎の死角にカメラを設置すべきという意見が出たが却下され、対策が不十分に感じる。

⑭学生へのマナー指導や社会性を身に付けさせる指導は適切に行われ、満足する状況にあるか			・マナー指導を行っているが、いまだ完全であるとは言えない。 ・校内窃盗事件発生の為、今後、学生個人による貴重品管理を意識させる指導を行う必要がある。 ・常に指導を行っているか、学生の意識を改善できたか疑問である。
⑮学生個々の理解に努め、適切な指導が行われていたか	3.5	3.0	・地震と停電のため学園祭は中止、感謝祭を実施して収益を寄付した。むしろ例年より充実した内容であったが造園緑地科以外の学生も参加させるべきだった。 ・十分であったか疑問である。
⑯体育大会、学園祭等は学生主体のもと、その目的を達成できたか	3.8	3.5	・災害の影響で学校祭が中止となり、後日、学生運営委員の意見を尊重した行事实施の予定が全く違う形となったのは残念。 ・地震で学校祭が中止になったが、おおむね無事に終了となりそうだ。 ・達成できたと考える。
⑰関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4.0	3.6	・委員会を開催しているが、年々議題が狭まっているように感じる。 ・行われていないと考える。
⑱職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.8	3.5	・行っているが、出席常でない委員もいる。 ・評価については概ね取り入れていると考える。 ・外部からの声にもできる限り答えている。
⑲人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.8	2.7	・有事の際に不安がある。 ・十分確保していると思えない。執行体制の検討も必要かと考える。 ・昨年の点数は低かったが、自信をもって十分要件に備えた教員であるものと考えている。
⑳関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3.5	3.1	・十分とは言えないかもしれないが、できるだけ研修会への参加を促している。 ・十分な取り組みとは思えない。
平 均	3.6	3.4	

IV 学修成果

項 目	H28 評価	H29 評価	所 見
①教育目標の達成度 (1) 基礎学力の向上	3.2	3.8	・ 小中高を通して身に付けるべき基礎学力が専門学校の一部講義で向上するものだろうか。 ・ 達成度が十分であったか疑問である。
②教育目標の達成度 (2) 専門の基礎知識・技術の習得	3.7	3.5	・ 専門分野についてはおおむね達成できたのではないか。
③教育目標の達成度 (3) 社会人になるためのマナーと教養を身につける	3.2	2.8	・ 常々指導しているが十分改善されているか疑問である。
④進学率や就職率の向上が図られているか	4.0	3.7	・ 十分図られていると思う。
⑤資格取得率の向上が図られているか	4.0	3.5	・ 十分図られていると思う。
⑥退学率の低減が図られているか	3.6	3.1	・ 学生の資質から判断すれば、図られていたと考える。
⑦卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.1	3.2	・ 概ね把握していると思う。
⑧卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.1	3.1	・ 十分把握し進めていると考える。
平 均	3.5	3.3	

V 学生支援

項 目	H28 評価	H29 評価	所 見
①進路指導は学生のニーズ・適性等に即し、適切に進められたか	4.0	3.8	・ 適切に進められていると考える。
②保護者との連携は密接・効果的に行われていたか	3.5	3.5	・ 適切に進められていると考える。
③基本的生活習慣の確立のため取組が行われているか	3.2	3.1	・ 常々指導を行っているところである。

④学生の安全管理のための取組等が行われているか	3.8	3.3	・ 常々指導を行っているところである。
⑤学生・保護者からの相談体制が整備されているか	3.7	3.7	・ 相談があれば即座に対応している。
⑥進学・就職指導に係る支援体制は整備されているか	3.8	3.8	・ 担任主導で行っているが、記録の面では管理の改善余地があると思う。 ・ 概ね整備されていると考える。
⑦学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.9	4.1	・ 学校独自の学費の免除ほか助成金、給付金、給付金制度も活用されている。 ・ 支援体制は整備されていると考える。
⑧学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	3.3	3.5	・ 概ね整備されていると考える。
⑨課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.9	2.8	・ 課外活動に対する支援は整備されていない。
⑩学生の生活環境への支援は行われているか	2.8	2.8	・ 生活環境まで深く立ち入っていない。
⑪卒業生への支援体制はあるか	2.8	2.9	・ 要望があれば就職や資格取得の支援をしている。 ・ 体制は確立されていないと考える。
⑫社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.8	2.9	・ 整備されていると思えない。
平 均	3.4	3.4	

VI 教育環境

項 目	H28 評価	H29 評価	所 見
①教室・実験室等の規模や配置は適切であったか	3.1	3.0	・ 実験室は学生増に対応できない。 ・ 十分ではないが、おおむね適切な範囲と考える。
②校舎内外の施設設備の充実、維持管理は適切であったか	3.5	3.2	・ 校内点検への指摘は度々聞かれる。 ・ 概ね適切であったと考える。
③実験実習設備、機械類の整備・活用は適切であったか	3.2	3.3	・ 実習時間の錯綜により実験器具が不足しがちである。補充が必要。 ・ 測量機器やソフトが更新されている。 ・ 概ね適切であったと考える。
④蔵書を含めて図書閲覧のニーズに応えられていたか	3.4	3.1	・ 整頓する時間が欲しい。 ・ 書籍数も増え概ね応えられていると考える。

⑤情報機器の充実及び活用状況は適切であったか	3.8	3.4	・概ね適切であったと考える。
⑥校舎は衛生的（清掃・美化）に管理されていたか	4.0	3.3	・実習室に集められているゴミ処理は適切に行うべきである。 ・職員の努力が見られる。 ・清掃後にモップの悪臭が残るという事態が続いている。 ・1Fの玄関の臭いが気になる時がある。 ・概ね適切であったと考える。
⑦防災に対する体制は整備されているか	3.9	2.5	・安否確認・備蓄品等、更なる改善が求められる。 ・停電、豪雪等への準備が不十分。 ・災害発生時等対応について不安あり。 ・概ね適切であったと考える。
平 均	3.5	3.1	

VII 学生の受け入れ募集

項 目	H28 評価	H29 評価	所 見
①学生募集及び入学選考は、時代の変化、学生の実態に対応したものとなっていたか	3.9	3.1	・内容はほとんど変わっていない。 ・概ね適切であったと考える。
②広報活動（体験入学を含む）の内容、方法、実施時期等は適切であったか	3.9	3.0	・体験入学の回数が多すぎる。 ・一定の入学数は確保しているが、募集ツールは見直したい。 ・概ね適切であったと考える。
③学納金は妥当なものとなっているか	3.8	3.0	・概ね適切であったと考える。
平 均	3.9	3.0	

VIII 財務

項 目	H28 評価	H29 評価	所 見
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.4	3.1	・詳細は確認できない。
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.4	3.0	・詳細は確認できない。
③財務についての会計監査が適正に行われているか	3.5	3.6	・詳細は確認できない。
平 均	3.4	3.2	

IX 法令等の遵守

項 目	H28 評価	H29 評価	所 見
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.1	3.6	・概ね適切と考える。
②個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	3.4	3.2	・概ね適切と考える。
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.7	3.3	・問題点があれば改善している。
④自己評価結果を公開しているか	3.6	3.7	・必要があれば公開している。
平 均	3.7	3.5	

X 教育活動全体及び学生の実態について、昨年度と比較して良かった点・悪かった点

・ ・企業実習生の一部には、受講意欲の乏しい者や、授業態度の悪い者が見受けられる。入学時には把握できない場合もある。このような学生の対応や取扱いを、ある程度明文化しておくことも必要かと考える。 ・資格合格率の向上が図られた。 ・モエレ会を開催し、卒業生の交流の場を持たせた。 ・中学生体験学習を可能な限り受け入れることができた。しかし、一部の教員だけでなく分担して対応しても良いと思う。 ・災害時の対応について更に煮詰め、練習が必要。 ・Auto CAD を導入し業界のトレンドに込んでいる。 ・意欲、目的意識ともに下落傾向。 精神的な問題を抱えるものが増えた。 ・入試選抜方法の見直しが必要。 ・合否判定に恣意的なユレがある。 ・カリキュラムの再編により学生に若干の余裕が見られる。 ・本年の企業実習で公務員と民間会社、建設会社とコンサルタントとの併用があり、職業選択に有効であると思った。 ・入学選考時の指標となる数学の点数の点数（40 点）は厳守すべきである。

- ・良かった点
 - ・朝の打ち合わせが持ち回りで司会をすることによって、情報の共有で比較的できるようになった。
 - ・2級土木施工管理試験は、環境土木工学科が受験者17名中16名、施工科は18名全員が合格した。また、測量士または測量士補の構内試験は環境土木工学科20名と測量情報科11名人員が合格した。
- ・悪かった点
 - ・校内で盗難事件が発生し、犯人は本学の学生であった。もう一度、自己管理と道徳の徹底が必要となった。
 - ・退学者は4名。内訳：病気1名、学力不足1名、退学（除籍）1名、進路変更1名。
休学者は2名（病気）と、昨年度に比べて多少多くなっている。